



医療4.0 : 第4次産業革命時代の医療 : 未来を描く30人の医師による2030年への展望

加藤浩晃著. -- 日経BP社, 2018.

ISBN : 9784822256104

REVIEWER

医学部 医学科 5回生

広がる医療の可能性をお見せします！

未来のお話をしましょう。10年後の自分はどこで働いていて、10年後の世界はどのようになっているのかな。臨床研修も終わって専門科も決まりばりばり働いているかな、結婚しているかな、自分の好きなことを見つけられているかな。

これから10年で、都市部で高齢化のピークに達し、医療受給量もピークに達する。日本は急激な人口減少を経験する。医師が減り患者が増えていく社会となるが、AIや遠隔医療の技術が真価を發揮する時代がやってくる。

これまでに医療は、皆保険制度、介護施策の促進、電子カルテをはじめとしたICT化を経てきた。現在、四苦八苦して考えている鑑別疾患はAIが考える時代へ、電子カルテを記載するという雑務は格段に減る時代へ、患者が望めば遠方の医師の診察をオンラインで受けることができる時代へと確実に進んでいる。

(裏へ続きます)

490

4

Ka 86

医図開架

⇒⇒⇒

いちばん大きな変化としては、医療の主体が患者自身に代わっていくことかもしれない。"病気とともに生きる"ことが普通のことになる時代、目指すべきは医療機関で彼らを治療することではなく、医療との接点を医療機関以外にも広めていくことである。

病院に来る負担をなくすため、産婦人科・小児科の医師に直接相談できるLINEボットの開発や、大腸がん検診をゲーム感覚で行わせ健康に関心のない層にも医療を届けにいく技術、IoTを活用し歩数や個人の生活習慣を意識させ健康に繋げる試み…など30人の医師が行っている取り組みは、これからの時代の予防医療の重要性に気付き、自分なりの働き方を見つけるきっかけとなるはずだ。

臨床、研究、行政、AI開発などの企業…など医師には様々な働き方があるが、敵はライバルでも意地の悪い上司でもなく、病気と不幸である。病気と不幸と闘うアプローチとして、テクノロジーの考えを取り入れてみてはいかがだろうか。

受理：2019-01-28